

令和5年度 第5回教育委員会

日時 令和5年7月31日(月) 14:30~15:55

場所 町公民館・大会議室

出席者	教育委員	柿田 美香	教育長	岩切 康郎
	教育委員	横山 槿子	教育総務課長	野村 敏幸
	教育委員	中神 克寿	社会教育課長	佐藤 光久
	教育委員	山口 昇	教育総務課主幹	村中田 博
			教育総務課係長	鶴田 智恵
			社会教育課係長	麻生 昌秀
			議事録	森田 新太郎

傍聴者2名

○開会の挨拶

○教育長挨拶

(教育長)

熱中症による事故防止、水難事故防止(ライフジャケットの装着)、精神疾患による教職員の離職(メンタルヘルス研修)に触れて挨拶を行った。

○教育長事務報告

・行儀経過報告及び行事計画について

(教育総務課 係長)

(社会教育課 係長)

行事経過報告並びに行事計画について、資料に沿って説明を行った。

(教育長)

市町村教育委員会連合会総会(電子機器使用による健康被害)、ふるさと夏祭り、図書館協議会(電子図書の活用)、登館日(公民館でのサマースクール)、小中学校管理職との意見交換会に触れ補足を行った。

(教育委員)

電子機器使用による健康被害では20・20・20の法則で20分の使用で、20秒、20フィート先のものを見るというルールであった。電子図書について先日テレビ番組内で紹介があった。障がいのある方に対して紙の本は重く、弱視によって読めない場合もあり、そのような方に対して読み上げ機能等が使用できる電子図書は有効だと感じた。

(教育長)

様々なバリエーションを持たせながら、綾町に住む全ての人が本が読みやすい環境作りを行いたい。

(教育委員)

熱中症の指数を図る測定器はあるのか。

(教育総務課 主幹)

設置しており、記録も行っている。

(教育委員)

精神疾患による教職員の離職の記事を見たが、教育委員会への出向も大きな原因としてあるようであった。教員採用試験の倍率も下がってきており、それによる教職員の質の低下もあるため、教職希望者を増やすような取組を行うというような記事があった。県教委はどのような計画があるのかを伺いたい。

(教育長)

宮崎大学と連携を図り、地元枠を増やすというような取組、免許は持っているが教育現場から離れている人を対象とした説明会を行っているが、すぐに回復するわけではない。そのため、メンタルヘルス研修のルーティン化を行うようお願いしている。コンプライアンス研修は約13年前にルーティン化され、教頭がコンプライアンスリーダーとして年3回研修を行っていた。初めは違和感があったが、今では当たり前に行うものになっている。研修を行ったからと言って不祥事がなくなるわけではないが、手をこまねくのも違う。

一般教諭が疲弊しているのに一般教諭が研修を受けず、管理職だけが研修を受けている。綾町では昨年度から年に3回メンタルヘルス研修を行うようにしている。クレーム対応、アンガーマネジメントなどバランス良く取り組んでいる。しかし、他の市町村を見てもコンプライアンス研修を設けているところはほとんど存在しない。教員採用試験の受験者も少なくなっているが、管理職試験の受験者も少なくなっている。

(教育委員)

教員免許を持っている知り合いがいるが、学校現場を知り諦めた人がいる。

○協議事項

・小中学校の児童生徒の状況について

(教育総務課 主幹)

資料に沿って説明を行った。(ICT指導力向上研修、SNS相談窓口開設の取材)

(教育長)

綾町のICT指導力向上研修の良いところは、幼保小中合同で行えることである。アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの中でのICTを活用する流れになると感じている。

あや子供SNS相談窓口を開設した。昨年度もニュースになったように夏休休業明けは全国的に小中学生の自殺未遂などが増える時期である。相談が来ないことが一番良いが、相談があった場合には、関係者内での即時情報共有を行い対応し、我々で対応が難しい場合は県

の機関など協力を求めて対応していきたい。ヤングケアラーへの対応もできれば良いと考えている。

(教育委員)

先月文科省の ICT 活用視察があり、今回の ICT 指導力向上研修を迎えると思うが、視察ではどのようなことをおっしゃられたのか。

(教育総務課 主幹)

大きく 2 つあり、1 つは情報能力活用育成での小中学校連携を問われた。小中学校での情報能力活用育成で上手く連携が取れていないことが浮き彫りになった。情報能力活用の体系的な指導の確認が必要。発表される 3 名の先生方には何をどれくらいまで高めるか明確にするようお願いをした。

2 つ目は情報モラルに関わることで、持ち帰り学習を行っているが、教員、保護者ともにまだ不安な要素がある。そのため、モラルの学習を行いながら持ち帰り学習を進めていく。

(教育長)

小中学校の先生方には小中学校連携を意識してもらっている。しかし、コロナの影響もあり合同研修もできず、御指摘を頂いた。今後は小中合同で年間計画を作るなど取組が必要である。

(教育委員)

お褒めの言葉はあったのか。

(教育総務課 主幹)

環境整備（電子黒板、ワイヤレス書画カメラ）、指導力の高い先生方が全体の指導力向上を図ろうとする姿勢、職員室の環境（電子黒板、タイムカードのシステム）、教職員の働き方改革、授業での ICT 活用仕方などお褒めの言葉を頂いた。

(教育長)

環境整備は整っており第 1 ステージはクリアしていると言えるため、第 2 ステージの学力向上や指導力向上を目指したい。

(教育委員)

あや子供 SNS 相談窓口の案内文書は定期的に配布する予定なのか。

(教育総務課 主幹)

学級への掲示や、長期休業の前後などに配布していきたい。

(教育委員)

定期的に配ることで親も確認することができる。

(教育長)

保護者の集いも今回参加者はなかったが、参加者がいなくても年に 3 回は募集をかけるようにする。

(教育委員)

ICT 指導力向上研修に幼稚園、保育園の先生方が参加されるということで、参加すること

で幼児教育に ICT を活用されすぎることに対し不安がある。

(教育委員)

保育現場では子供に対しての ICT 活用はあまり必要性を感じない。

(教育長)

小中学校のように、園児が 1 人 1 台タブレットを持つという訳ではない。

(教育委員)

研修を受けることで、先生方は早いうちから ICT 機器に触れることが大事なのではないかと勘違いされる先生がいるかもしれない。

(教育長)

その面に関しては、研修の際に十分伝えるつもりである。

(教育総務課 主幹)

幼保の先生方には働き方改革での ICT 活用をメインに学んでいただく。

(教育長)

先生側へ道具としての ICT 機器の活用性を触れてもらうような取組であり、決して園児にタブレットを持たせることを目的としたものではない。

(教育委員)

最近、保育現場に行くと小学校のように授業を行っているような姿をよく見かける。

(教育長)

アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムということで、小1プロブレムをなくすために年長からはそのような取組をされているところがある。

(教育委員)

幼児教育に学校教育のスタイルを前倒しして取り入れることには違和感がある。幼児期は発達に合った幼児期の方法で子どもの力を伸ばして欲しい。

・ 小学校教科用図書採択関係について

(教育長)

資料に沿って教科用図書採択会議の報告を行った。

(教育委員)

大きさ、重さなどから始まり、使いやすさ、見やすさ、他の教科書とのつながりなどを踏まえて見させていただいた。デジタルコンテンツの発展、見て学ぶというものになっていると感じた。

(教育長)

上巻、下巻で分かれているものがあつたが、合本が増えている。重さなどが話題になっているが、最近では学校に教科書を置いているため合本が多いということであつた。

・ 令和 4 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況点検評価報告書について

(教育総務課 課長)

資料に沿って説明を行った。

○閉会

閉会后、小学校教科用図書の現物を確認